

「情報の共有化」の3つの深度

情報の共有化には「3段階の深度」があります。

報告や連絡は、関係者が情報を共有することです。相談も情報の共有化がまず必要です。その場合、伝わらなければならないのは、「言葉や数字」だけではありません。その「意味」を伝えることが大切です。さらには「思い」を共有したいものです。

私たちが普段使っている「情報の共有化」は、文字・数字(データ)の共有化のような感じではないでしょうか。しかし、目を凝らして、企業の内外を観察しますと「情報の共有化」には3段階の「深度」があるのがわかります。

情報の共有化の深度

深度 1	事実情報の共有化	知っている(見た・聞いた・読んだ)	聞く
深度 2	意味(目的)の共有化	わかっている(意味が通じる)	訊く
深度 3	考え方の波長の共有化	心が揃っている(気持ちに通じる) (共感・感動・やる気)	聴く

©糸藤正士

- 上から下、下から上、横・斜、全ての関係で「情報の共有化を深める」のが真・報連相です。
- 発信者と受信者の双方で、情報の共有化を深めましょう
- 職場全体で情報の共有化を深めましょう。